

AFC円卓会議：イスラム文化と日本①

「イスラム文化圏出身の若者の実生活と 未来における日本」

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共催：東北学院大学

2026年8月27日（木）9:00～10:30

於・東北学院大学五橋キャンパス

言語：日本語・参加無料

趣 旨

日本には中近東や東南アジアの国々から来た多くのイスラム教の移住者がいるが、日本語や文化、教育の環境に順応しようとしながら生活する中で、さまざまな困難に直面している。まずは言語の壁や文化的な違いによる摩擦が大きな課題だ。また、日本で生まれ育った子どもたちにとっては、自らのルーツに基づくアイデンティティーや宗教教育に関する問題も浮上している。

本セッションではトルコ、イラン、インドネシア出身の若者の日本文化の受容と日本での生活に焦点をあて、異文化共生の角度から議論を行う。イスラム文化圏から来た移民や外国人コミュニティが直面する問題を深く掘り下げ、具体的な努力や解決策を模索する場としたい。

プログラム

司会：岩田和馬（東京外国語大学）

9:00 報告①

「在日イラン人留学生の日本社会認識と将来展望—日本語専攻学生を中心としたオンライン調査—」
ホセイニ・アヤット（テヘラン大学）

本発表では、日本に在住するイラン人留学生、特に日本語・日本文化関連分野を専攻する学生を対象として実施予定のオンライン調査について報告する。調査では、日本社会への適応過程において直面している課題、日本社会や日本人に対する認識、日本での生活に伴う不安、さらに将来の進路選択に関する意識を明らかにすることを目的とする。具体的には、日本での進学・就職の希望、日本定住の可能性、イランへの帰国あるいは第三国への移動意向とその背景について分析を行う。また、日本企業への就職に対する期待や懸念にも着目し、言語能力、文化的差異、宗教的要素がキャリア形成に与える影響を検討する。これにより、在日イスラム圏留学生の実態理解を深め、異文化共生社会における支援の在り方について考察する。

報告②

「イスラムにルーツを持つ若者たちの日本での歩みと挑戦ーアフガニスタン人コミュニティーを事例にー」

アキバリ・フーリエ（神田外国語大学）

日本には中近東や東南アジアの国々から来た多くのイスラム教の移住者がいるが、日本語や文化、教育の環境に順応しようとしながら生活する中で、さまざまな困難に直面している。まずは言語の壁や文化的な違いによる摩擦が大きな課題だ。また、日本で生まれ育った子どもたちにとっては、自らのルーツに基づくアイデンティティーや宗教教育に関する問題も浮上している。本セッションではトルコ、イラン、アフガニスタン、インドネシア出身の若者の日本文化の受容と日本での生活に焦点をあて、異文化共生の角度から議論を行う。イスラム文化圏から来た移民や外国人コミュニティーが直面する問題を深く掘り下げ、具体的な努力や解決策を模索する場としたい。

報告③

「イスラムにルーツをもつ若者たちの日本での歩みと挑戦ーインドネシア人コミュニティーにおける宗教教育の実践を通じてー」

ロスティカ・ミヤ・ドゥイ（大東文化大学）

在日インドネシア人コミュニティーでは、親の在留に伴う子どもやインドネシアにルーツを持つ子どもが急増しており、日本社会における宗教教育とアイデンティティー維持が切実な課題となっている。親たちは人格形成への期待から「国際イスラム学校」を選択する。しかし、無認可校であるがゆえの経済的負担、日本語から英語への学習言語の転換による学力低下、さらには大学受験の困難といった壁が立ちはだかる。若者たちは、第一言語である日本語と信仰を保ちながら将来を見据え、日本の高校へ進み直すなど、「信仰」「学力」「共生」の調和を模索している。多文化社会の中で自らの未来を主体的に切り拓こうとする若者たちの歩みと挑戦について考察する。

報告④

「メディアにおける日本のトルコ人コミュニティー」

チェリッキ・メレキ（チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学）

本研究の目的は、「在日在住トルコ人」というフレーズでGoogle検索結果に表示される上位10件のニュース記事の内容を分析し、日本のメディアにおけるトルコ人市民のイメージがどのように描かれているかを明らかにすることである。本研究では、日本のデジタル新聞記事をリストアップし、多文化主義、文化統合、犯罪、社会的受容と排除といった文脈において、これらの記事に描かれているトルコ人市民のイメージを検証する。

総合討論と質疑応答

コメンテーター：シェッダーディ・アキル（慶応大学）、徳永 佳晃（日本大学）、岩田和馬（東京外国語大学）

10:30 閉会

登壇者紹介

司会進行：Kazuma IWATA | 岩田和馬

東京外国語大学外国語学部西南アジア課程トルコ語学科卒業。同大学大学院総合国際学研究科にて修士号取得・博士後期課程在学。2020-2023年にトルコ、ボアジチ大学客員研究員としてイスタンブールへ留学。2024年度渥美奨学生。専門は18世紀イスタンブールの都市社会史。

報告者①：Ayat HOSSEINI | ホセイニ・アヤット

名古屋大学、テヘラン大学、東京大学で学士から博士課程を修了。現在、テヘラン大学日本語・日本文学専攻の教員及び東アジア言語文学科の学科長を務める。専門は日本語学・日本文学で、2024年末までに著書10冊、学術論文40編を発表し、23件の修士論文を指導。研究・教育活動の一環として、日本語・日本文化に関する学術的取り組みに従事。2022年、日本外務大臣表彰を受賞。

報告者②：Melek ÇELİK | チェリッキ・メレキ

2009年度渥美奨学生。チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学日本語教育学部助教授。2011年11月筑波大学人文社会研究科文芸言語専攻の博士号（文学）取得。白百合女子大学、獨協大学、文京学院大学、早稲田大学非常勤講師、トルコ大使館文化部／ユヌス・エムレ・インスティトゥート講師、トルコ国立ネヴシエル・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学東洋言語東洋文学部助教授を経て2018年より現職。

報告者③：Hourieh AKBARI | アキバリ・フーリエ

イラン出身。テヘラン大学大学院日本語教育専攻修士課程修了。千葉大学博士後期課程修了（2018年博士号取得）。現在、神田外語大学国際コミュニケーション学科専任講師、千葉大学国際教養学部非常勤講師。2017年度渥美奨学生。日本在住の外国人や難民の言語環境および言語問題について、社会学・言語学の視点から研究。多文化共生社会、異文化理解、コミュニケーションに関する研究・教育活動に従事。

報告者④：Mya Dwi ROSTIKA | ロスティカ・ミヤ・ドゥイ

2010年度渥美奨学生。国土館大学大学院政治学研究科より博士（政治学）を取得。現在、大東文化大学国際関係学部講師。専門はインドネシア地域研究で、特に女性英雄カルティニの政治的役割を研究。大学で「多文化共生」を担当しており、日本のインドネシア人コミュニティにも関心を持ち、副次的な研究として取り組んでいる。

コメンテーター①：Aqil CHEDDADI | シェッダーディ・アキル

慶應義塾大学総合政策学部訪問講師。モロッコ国立建築学校を卒業後に来日し、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の環境デザイン・ガバナンス博士課程を修了。博士（政策・メディア）。2022年度渥美奨学生。

コメンテーター②：Yoshiaki TOKUNAGA | 徳永佳晃

東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。日本学術振興会特別研究員PD（日本大学）、2023年度渥美奨学生。専門はイラン地域研究・近代政治史で、主な論文に「「不法な影響力の排除」を目指して：パフラヴィー朝成立期のイランにおける1304年選挙法改正(1925)」『歴史学研究』(1044)などがある。